

もっと知りたい ふるさと

19

荒砥城跡 城山史跡公園

平成七年、旧上山田町は、戸倉上山田温泉地の西方山腹「戸倉上山田」の広告灯が見える城山の頂上に、中世戦国時代の山城荒砥城跡群(市指定文化財)を、可能な限り史実に基づいて復原して城山史跡公園を造った。

荒砥城は、別名砥沢城とか山田城とも呼ばれ、応仁時代、山田信兼が築いた山城のことである。千曲川流域を上田方面から長野方面まで一望でき、冠着山からの尾根の東端の険峻な断崖、そして北側は切り立った絶壁、下は荒砥沢の要衝にして要害なこの地、城山に築かれた戦国初期の模式的な山城である。



当時の様子 (想像図)

て引いてきた。

この荒砥城を築いた山田氏は、清和源氏信濃村上氏の為国の子中綱(仲経)が、山田に分かれて住み、地名の山田を名乗った。山田仲綱は、山田地方を開拓して荘園とし、庄司となつた。そして、文治年間頃はカマヤ(構屋敷・釜屋)に居館していた。

山田仲綱の子山田為村は、専ら荘園の拡大と文化の進展に活躍した。例えば十二面観音を古屋から移遷し氏寺とし、宇佐八幡を氏神として拝した。そして、建久八(一一九七)年、源頼朝善光寺参詣の折、その活躍忠勤を賞賛され守護不入の大特典を賜った。

山田為村の曾孫山田信兼は応仁時代(一四六七)一四六八)に城山に荒砥城を築城し釜屋から城腰に移った。そして、波岡科神社もハベシナ峠から現在地城腰へ移遷した。

天文の初(一五三二)年頃、葛尾城主村上顕国は、武田軍の進出に備えて、小県郡神科村戸石に戸石城を構えた。これを継いだ村上義清は、荒砥

城主の山田国政及び吾妻清繩に城代として守備をさせた。ところが、天文二十(一五五二)年五月二十六日、武田方の真田幸隆に戸石城を急襲され、城代山田国政と吾妻清繩の二将は奮闘及ばず戦死してしまつた。

そこで、荒砥城は、山田国政の子豊後守山田国継が継いだ。だが、天文二十二(一五五三)年四月五日武田勢に攻められ、荒砥城は遂に落とされてしまつた。続いて葛尾城も同四月九日に陥落した。

この城山史跡公園は、近年、NHKの大河ドラマ「風林火山」・「江」などのロケに使われ、観光のスポットになったりしている。



城山史跡公園案内図



大河ドラマの撮影に使われた物見櫓や兵舎